

史料を通して読む近代の文化財、地域史

板橋グリーンカレッジ 大学校2年（後期・全3回）

概要

日時	第1回 令和7年10月22日（水）午後2時から午後3時30分まで 第2回 令和7年10月29日（水）同上 第3回 令和7年11月6日（木）同上
形式	座学
会場	板橋区立グリーンカレッジホール
講師	学芸員 杉山宗悦
参加者数	108名

※令和7年度板橋グリーンカレッジの授業として実施。



講義の趣旨

近代に生まれた比較的新しい時代の文化財を、私たちは如何に守り、活用したら良いのでしょうか。その第一歩は文化財の価値を客観的かつ実証的に知ることです。本講は史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」を中心に、歴史資料（史料）の解読を通して近代の文化財を多角的に見つめ、それが描き出す地域史を考えます。（講義概要）

第1講 総論：史跡の概要と歴史資料の特徴を学習します。

第2講 各論：火薬製造所の敷地拡大を史料で考えます。

第3講 各論と総括：全体のまとめと近代文化財の展望。

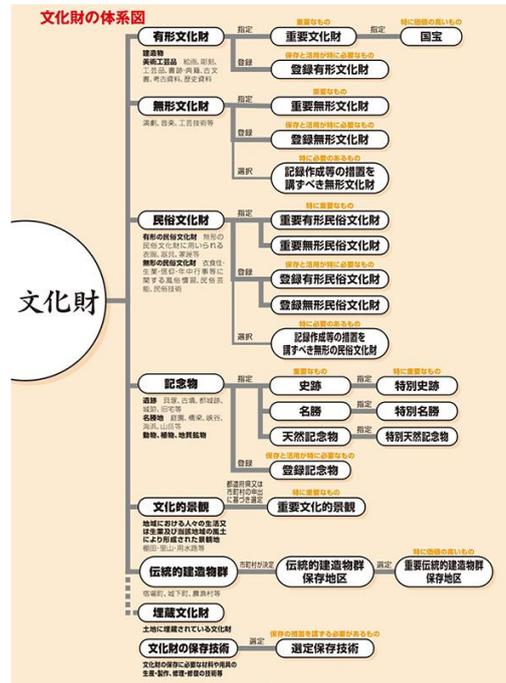
主な内容

第1講 史跡と歴史資料

近年、近現代の文化財に関するニュースが全国で話題になることが多くなりました。発見されて保存されるものがある一方で、その価値が共有されながらも解体されたものも多く、近現代の文化財の保存と活用をめぐる議論が全国各地で起こっています。

今後、確実にその数が増えていく近現代の文化財に対して、私たちはどのように向き合うべきでしょうか。本講義では受講生と一緒に、歴史学の立場からその問いを考えることとしました。

第1講では、まず文化財保護制度の歴史と特徴を説明し、多種多様な種別を保護する体系をもつことを確認しました。さらに授業の後半では、本講座が主たる事例として扱う国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」の近世から戦後に至る歴史を紹介しました。



(右図：文化庁『未来に伝えよう文化財』2023 より引用抜粋)

第2講 板橋火薬製造所の敷地拡大と史料



敷地拡大図 【地図出典】 Open Street Map

第2講と第3講は各論と位置づけ、近現代の文化財（特に史跡）と歴史資料との密接な関係性を、実際に史料を読み解きながら学習しました。

明治初年、板橋火薬製造所は旧加賀藩下屋敷の跡地に成立しました。このことから板橋火薬製造所の

敷地＝旧加賀藩下屋敷の跡地とイメージされていますが、正確には二つの範囲は完全に重なってはならず、板橋火薬製造所の敷地は複雑な経過を辿りながら拡大してきたことが、近年の史料調査で明らかになっています。

そこで本講は明治 19 年（1886）と大正 4 年（1915）の敷地拡大を事例に、陸軍が板橋火薬製造所の敷地を拡大してきた経過を紹介しました。両事例の詳細については、下記の参考文献をご覧ください。

ところで歴史資料は崩し字で書かれていることが多く、その解釈も難しいため、いきなり読み始めることは難しいですが、ぜひ受講生のみなさんに史料を読む楽しさを体感してもらいたい！と考え、わかりやすい史料を例にワークを行いました。

参考文献

- 杉山宗悦「大正 4 年陸軍板橋火薬製造所の敷地拡大」（『板橋区立郷土資料館紀要』23 号、2021、所収）
- 杉山宗悦「明治 19 年における陸軍板橋火薬製造所の敷地拡大―火薬試験場敷地の買収―」（板橋区教育委員会編『陸軍板橋火薬製造所跡調査報告書』vol.2、2024、所収）

第3講 開拓使と火薬原料



北海道に繁茂する川柳 講師撮影

区民のみなさんから「板橋火薬製造所では、どのように火薬が作られていたのですか？」という質問をよく聞かれます。しかし、詳しい様子は案外わかっていないというのが現状です。

ところが近年、偶然出会った史料からその一端が垣間見えてきました。

第3講で紹介したのは、明治初期、北海道の開拓と地方行政を担った開拓使が、陸軍に対して火薬原料を売り込もうとした事例です。開拓使は、北海道開拓の一環として殖産興業政策を進めており、その一事業として川柳の供給を計画します。結果的にはコスト的な問題で陸軍側と折り合いがつかず、川柳の供給は実現しませんでした。その過程で板橋火薬製造所との折衝や、原木となる「川柳（現在のネコヤナギ）」が火薬原料として厳格な規格化がなされ、結果的に生産コストの増大に影響したことなどが明らかになりました。（その他、明治前期の社会を反映した様々な出来事がわかったのですが、詳細は拙稿をご覧ください）

ところで北海道立文書館が所蔵する「開拓使文書」は、わずか 10 年ほどの短期間に 8,000 点もの文書が蓄積した貴重な史料群で、国の重要文化財に指定されています。陸軍側にも残っていなかった記録が板橋から遠く離れたところで、しかも膨大に見つかった事実、受講生も驚いていました。

本講も受講生にはワークを行ってもらい、歴史資料の分析するイメージを体感して頂きました。また最終講として、講義全体のまとめも行いました。

参考文献

- 杉山宗悦「明治前期における火薬用木炭材の供給と調達 ー開拓使の川柳供給計画を事例に」(『板橋区立郷土資料館紀要』24号、2023、所収)

あとがき

今年の春、グリーンカレッジの担当者から本講座の依頼を頂いたとき、少々戸惑いました。

というのも、本講座は1コマ90分の授業を、3週に渡ってお話しする「長い授業」です。受講生は100名以上いるため、ある程度一方的に授業を展開する座学形式にせざるを得ません。「本当に楽しんでもらえるだろうか」という不安は講義の準備中、常に抱えていました。

ですが、前向きに捉えなおせば、これまで調査研究してきた成果を、時間を気にせずじっくりとお話できる機会でもあります。区民のみなさんにわかりやすく伝えるチャンスと思い直し、しっかりとした構成を組むことにしました。その代わりに、受講生が主体的に参加できるよう、各回でワークを用意する工夫も行いました。

その取り組みが成功したかどうかはわかりませんが…毎回、講義後に詳しい質問をされる方、わかりやかかったと感想をお話して下さる方がいらっしゃったことが印象に残っています。(私は講座後、受講生とお話できるのが大好きです)。

楽しんでいただけたかなと嬉しく思いました。受講生のみなさま、ありがとうございました。(S)

作 成

令和7年12月3日

板橋区教育委員会事務局史跡公園担当課

※本資料の複写、複製、二次利用は私的使用を目的とする場合に限りません。